

I. 病院の概要

2023年4月～2024年3月

1. 概要

■名称

医療生協さいたま生活協同組合
埼玉協同病院

■所在地

埼玉県川口市木曾呂1317 (〒333-0831)
TEL : 0570-00-4771
FAX : 048-296-7182
ホームページ : <https://kyoudou-hp.com/>

■開設年月日 1978年 4月 1日

■2023年度実績 (全体)

外来延患者数	162,237人
1日平均外来患者数	571人
救急搬送受入れ件数	3,755件
新入院患者数	7,221人
在院患者延数	98,188人
平均在院日数 (一般)	13.6日
病床稼働率 (一般)	72.0%
紹介患者率	33.4%
逆紹介患者率	29.1%

■標榜科

内科	精神科
循環器内科	放射線科
呼吸器内科	麻酔科
消化器内科	リハビリテーション科
緩和ケア内科	病理診断科
神経内科	リウマチ科
小児科	臨床検査科
外科	腎臓内科
呼吸器外科	血液内科
消化器外科	糖尿病内科
乳腺外科	救急科
整形外科	泌尿器科 (人工透析)
脳神経外科	緩和ケア外科
産婦人科	
泌尿器科	◇専門外来
皮膚科	被ばく相談外来
眼科	禁煙外来
耳鼻咽喉科	在宅医療

■病床数 373床

病棟	病床数	診療科等
C2	58	回復期リハビリ病棟
C3	40	一般内科
C31	13	小児科
C4	50	外科、整形外科
C5	50	消化器内科、呼吸器内科、
東2	52	整形外科
東3	32	産婦人科、乳腺外科
東4	50	循環器内科、糖尿病内科、腎臓内科、
HCU	8	総合内科
東5	20	緩和ケア病棟

■職員数 991名

職種	常勤・嘱託	非常勤
医師	84	124
初期研修医	15	
看護師	233	46
助産師	26	7
保健師	24	2
准看護師		6
看護サポート	7	35
薬剤師	31	2
臨床検査技師	23	3
理学療法士	37	
作業療法士	19	
言語聴覚士	6	
歯科衛生士	2	
診療放射線技師	26	
臨床工学技士	16	
管理栄養士	16	
調理師	9	4
調理員		16
介護福祉士	10	
事務総合職	73	68
保育士	1	11
技師・助手		9
計	658	333

(2024年3月末日現在)

■名称

医療生協さいたま生活協同組合
ふれあい生協病院

■所在地

埼玉県川口市木曾呂1302-1 (〒333-0831)
TEL：0570-00-4771
FAX：048-296-7182
ホームページ：https://kyoudou-hp.com/

■開設年月日 2023年8月1日

■2023年度実績（全体）

外来延患者数	10,820人
1日平均外来患者数	433人
新入院患者数	418人
在院患者延数	7,091人
平均在院日数（地ケア）	18.0日
病床稼働率（地ケア）	64.9%

■標榜科

内科
循環器内科
糖尿病内科
呼吸器内科
消化器内科
脳神経内科
小児科
外科
呼吸器外科
消化器外科
泌尿器科
皮膚科
眼科
耳鼻咽喉科

■病床数 54床

病棟	病床数	診療科等
北2	54	地域包括ケア病棟

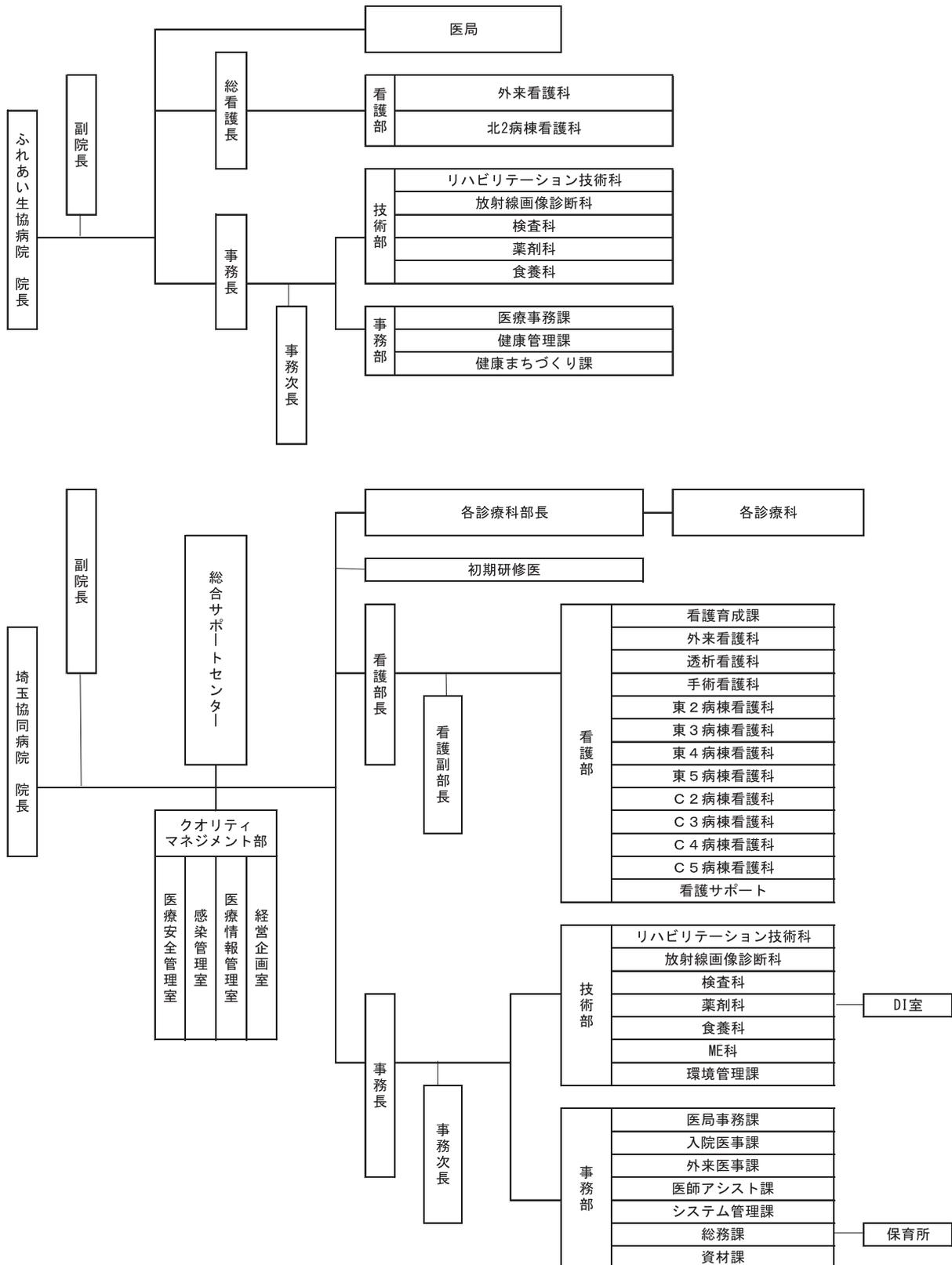
■職員数 209名

職種	常勤・嘱託	非常勤
医師	4	27
看護師	17	25
助産師	2	
保健師	14	3
准看護師	1	7
看護サポート	4	4
薬剤師	2	
臨床検査技師	7	2
理学療法士	3	
作業療法士	2	
言語聴覚士	1	
視能訓練士	2	1
診療放射線技師	6	1
管理栄養士	2	3
事務総合職	28	41
計	95	114

(2024年3月末日現在)

2. 組織機構図

埼玉協同病院・ふれあい生協病院 組織機構図 (2023年8月14日～)



3. 2023年度埼玉協同病院スコアカード

【ミッション】人を人として尊重し、地域包括ケア時代に輝く病院群になる。

- 【ビジョン】《埼玉協同病院》 ①救急医療・がん医療を軸に急性期病院としての医療機能と質を高める。
 《ふれあい生協病院》 ①在宅療養支援病院としての機能を確認し、患者や組合員の望む暮らしを支援をする。
 ②総合性と専門性を備えた医療専門職が集い、育つ病院となる。
 ③ヘルスリテラシーを高める活動とともに、健康の社会的決定要因（SDH）の視点を日常診療にいかした生活支援を行う。
 ④2つの病院の診療連携機能を高め、各医療チームの活動が発展する組織運営を行う。

	戦略目標	2023年度 重要成功要因	評価指標
強い医療生協を作る視点 (F)	<p>複合的な事業をチーム力で成功させる</p>	<p>救急対応力を向上させ、社会派ERの特徴を生かした急性期病院の機能を強める。</p> <p>在宅事業を拡大し、地域の暮らしを支える機能を本格稼働させる。</p>	<p>協同</p> <p>救急搬入受け入れ数 各病棟（東2～5病棟）の稼働率 DPC IIの期間での退院患者の割合 D5（移転先C2）稼働率</p> <p>ふれあい</p> <p>地域包括ケア病棟指標（稼働率/在宅復帰率/在宅からの入院数） 紹介患者受け入れ数（外来/地ケア/訪問サービス） 訪問診療管理数/訪問診療 延べ回数/在宅看取り件数 健診受診者数</p>
利用者の要望の視点 (C)	<p>かかりやすい病院</p> <p>生活に困っている人の窓口となる</p> <p>地域で支えあう組織を作る</p>	<p>専門機能と総合診療の二つの病院機能をフル活用して、地域・患者の困りごとに対応する。</p>	<p>協同</p> <p>患者満足度（入・外） 救急搬入を断った数 社会的困難を抱えた患者を受け入れた数</p> <p>ふれあい</p> <p>外来待ち時間 退院支援満足度</p> <p>2病院共通</p> <p>医療・介護公開講座開催数/参加人数 虹の箱投書からの改善数（事業所利用委員会との共催） ボランティア登録数/活動内容数 病院バスを利用者数（駅便、診療所便）（苦情数） くらすボ、見守りサボなど生活支援のために紹介した件数</p>
確かな仕事づくりの視点 (P)	<p>チーム医療の進化（深化）</p> <p>横断的マネジメント機能の確立</p> <p>在宅事業の仕組みを確立する</p> <p>システム化・DXの活用</p>	<p>システムを活用し、業務を合理化し、より急性期病院としての専門力を発揮する。</p> <p>今までの知識や専門性を活かし在宅事業の仕組みを確立する。</p>	<p>協同</p> <p>入院前問診から多職種につなげて介入した件数 新規クリバス（特に内科）導入数 診療科別（外科、整形外科）手術件数</p> <p>ふれあい</p> <p>訪問サービス利用の応需日数 多職種による患者宅訪問数（入院前・退院後） 『木曾呂複合体+近隣法人内事業所』への患者紹介数</p> <p>共通</p> <p>タスクシフト・シェアのために行った手立ての数 電子カルテ・部門システム導入して改善された業務</p>
育ちあいの視点 (E)	<p>民医連医師・職員を育てる</p> <p>憲法理念を体現する学習</p> <p>働き続けたい職場づくり</p>	<p>憲法の理念を学び、誰もが人間らしく生きられる社会づくりに貢献できる職員を育成する。</p>	<p>共通</p> <p>LGBTQ や多様性・他文化を学ぶ学習会への参加者数 働き方・価値観、新しい教育手法の学習会と参加数 地域での社会的活動を行った職員数/企画数 職員間コミュニティ（サークル）の数 民医連・医療福祉生協3誌を活用した学習会と活動報告数 実習生・インターンシップ受入数（全職種）</p>
社会貢献の視点	<p>災害時連携病院としての活動を強める</p> <p>SDGsの取り組み</p>	<p>それぞれのテーマで学習・訓練を行う</p>	<p>共通</p> <p>2つの病院で活用出来る災害対策マニュアルの完成 大規模災害訓練と部門別訓練の回数と理解度 SDGsを冠にした取り組み・学習会の開催数 Co₂排出量</p>

4. 2023年度 埼玉協同病院 活動報告

1. 新型コロナウイルス感染症の4年目の取り組み

5月8日から、政府は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけを「2類相当」から季節性インフルエンザと同等の「5類」に変更しました。しかし、高い感染力は変わらず感染者数は増加傾向にあるため、引き続き感染予防対策を行いながらの病院運営となりました。

それに伴い、新型コロナウイルス感染症患者の専用病棟を廃止して、内科病棟で入院患者を受けの方針に切り替えました。

また外来診療も、レストラン虹の森を待合室として、発熱患者を分けて診療を行っていましたが、患者数の減少、建設計画に伴ってレストラン虹の森の閉店の時期も重なったことから、従前の急患外来に集約する事とし、感染対策を講じながらの診療に変更しました。

しかし5類変更後も、何度かの感染拡大期を迎える中、感染症患者の受入を積極的に行ってきましたが、感染拡大に伴い、院内クラスターや職員の感染を経験し、病棟運営としては非常に苦しい1年となりました。

今後も新型コロナウイルス感染症対策をおこないながら、地域の事業所とも連携して対応していくことができよう、合同訓練なども行い進めていきます。

2. 埼玉協同病院の新棟リニューアルとふれあい生協病院の開院に向けての取り組み

2022年12月の着工から約15ヶ月経過し、2023年6月15日に、埼玉協同病院の新棟（東棟）とふれあい生協病院が竹中工務店より引渡し完了となりました。

6月18日から本格的に医療機器を搬入し、開院に向けて様々な準備を進めました。



(1) 院内での準備

新病院オープンに先んじて、5月31日でレストラン虹の森が一時閉店となりました。最終日は事前にとったアンケートで一番人気のメニューだけを集めたお弁当を提供し、大変好評でした。

7月3日の2023年度第1回マネジメントレビュー（全役職者会議）では、埼玉協同病院東棟リニューアル&ふれあい生協病院開院を直前に控え、ふれあい生協病院の管理機構と組織図、2つの病院の役割機能や、患者対応のフローについて確認しました。7月は運用開始に向けて、数多くのリハーサルについて計画し、実施しました。

ふれあい生協病院では配属予定の職員を集め、7月21、25、31日に開院スタート集会を行いました。

初めての職員同士の顔合わせと、忍院長からふれあい生協病院の役割や職員への期待が語られました。みんなで協力し合って準備をすすめていこうと確認しあいました。

7月1、15日にはふれあい生協病院を使って、外来診療場面を想定したリハーサル、9・19日には健康増進センターの場面を想定したリハーサル、16・30日には入院患者さんを新しい病棟に移送するためのリハーサルなどを行いました。

特に15、19日のリハーサルは、組合員さんにも参加していただき、新しい病院での受診の流れや職員の案内などについてリハーサルを行いました。今回は病院の開院と同時に電子カルテの更新予定していたこともあり、慣れないカルテで検査や指示のオーダーを出すのに苦労したり、病院内の場所を説明するのに慣れていないため苦労する場面もありましたが、シナリオ通りに診察や会計を済ませたり、入院になったりとこれから想定される対応を経験することができました。



8月11日から13日にかけて、本格的に病院の引っ越しを行いました。

埼玉協同病院のB館の医局を始め、総務課、管理室、更衣室、健康増進センター等と8つの病棟が一斉に引っ越しとなりました。

今まで使っていた事務用品や医療機器も新しい病院で使用する事から、大きな物は運送業者の協力も得て引っ越ししましたが、細かい機器等は職員全員が休日返上で引っ越しを行い、開院日に向けた準備を進めてきました。

また今回は引っ越しと同時に電子カルテシステムの入れ替えも行ったため、引っ越しと同時に電子カルテシステムを止めて、手書きカルテの対応に変更して、数日病棟運営を行いました。新しい病棟で電子カルテやプリンターなどの設置と立ち上げ、患者受入の準備をすすめました。

8月13日にはすべての入院患者さんが新病棟へ引っ越しとなりました。7月からリハーサルを繰り返したことにより、スムーズに終了することができました。

新しい病棟や外来でサービス提供できるように、多くの職員が休日返上で準備を進めてきました。同時に川口市保健所の検査も受けて、全診療エリアの使用許可を受けることができました。

(2) 地域に向けた準備

開院間際の5月も各支部（伊川・芝、源左衛門、芝南、芝西、戸塚南、鳩ヶ谷中央、根岸、道合・神戸、柳崎・芝北）で医療懇談会が開催されました。

埼玉協同病院のリニューアルとふれあい生協病院の建設の進捗状況を報告し、病院の機能について繰り返して説明してきましたが、二つの病院の機能を理解するには難しく、参加された組合員からはたくさんの質問をいただきました。

5月26日には第1期工事の完了、ふれあい生協病院竣工前、最後の建設委員会総会を行いました。57名が参加して、建設の進捗状況と開院までのスケジュール、外来・病棟・健診リハーサルについて、訪問行動、内覧会・竣工式について、ボランティア学校の開催について等の準備状況が報告されました。また、内定したふれあい生協病院の管理部体制が紹介されました。

7月8日にはふれあい生協病院開院を知らせるための地域訪問行動を行い、209名（組合員43名・職員166名）が参加しました。今回協力してくださった組合員さんは、訪問行動は初めてという若い職員とともに、一緒に地域を訪問してくださいました。

ときどき雨のくもり空で蒸し暑い日でしたが、炎天下は免れて訪問日和となりました。久しぶりにお会いした





組合員の皆さんと「ふだんの行いがいいからね～」と天候の幸運を分かち合いました。

訪問先のご家庭からは、「新しい建物ができたのは知っています。ちょっとした風邪でも受診できるの?」「いつも協同病院を利用しています。今度はふれあい生協病院に行くのが楽しみ。これからも頑張ってください」など、たくさんの期待と励ましの声をいただきました。

8月2～4日にふれあい生協病院の内覧会を開催しました。

3日間で962名の方に来場いただきました。猛暑の中、予想を上回る来場者数となり、全県の組合員や地域の方々、事業関係者の期待の高さを感じました。埼玉協同病院の職員は案内係で奮闘し、半日で5つのグループの案内を行った職員もいました。

組合員理事・推進員、本部・みぬま・生協歯科・おみや・浦診・さいわいからも要員の協力があり、生協コーナーで増資を呼びかけていただきました。出資金は目標の60万円を超過達成することができ、ふれあい生協病院のロゴ入りマグカップも好評でした。



8月6日には、ふれあい生協病院の開院記念式典・祝賀会を行いました。川口市長、川口市医師会長、近隣医療機関の院長、町会長、川口北高校、法人理事等 51名の参加となりました。

奥ノ木川口市長からは「協同病院は、地域の最期の砦だと思っている、地域包括ケア時代に必要な病院群とし

て期待している」というご挨拶を頂きました。

3. 埼玉協同病院東棟とふれあい生協病院を開院して

8月14日は朝から両病院の職員が集まり、全体朝会を開催しました。3日間の病院引っ越しや開院準備のねぎらいと新しい病院の開院、2病院の新しい運用開始に向けて頑張ろうとの挨拶が、増田院長、忍院長から語られました。

開院当日は電子カルテ更新後、初めての診療となったため、システムのストップなどで診療が思うように進まず、来院された方の誘導も不慣れで、システムダウンによる待ち時間もあり来院された患者様にも大きなご迷惑をおかけしました。

新しくふれあい生協病院が開院していることを知らない患者様も多く、「久しぶりに受診に来たので、まったく勝手がわからない」と戸惑われている方も大勢いらっしゃいましたので、職員が案内しながら対応しました。

9月1日(金)ふれあい生協病院の北2病棟が入院受入を開始しました。初日は入院患者4名でスタートし、一ヶ月で25名の入院がありました。埼玉協同病院や他院からの、肺炎や尿路感染症、嚥下困難などの患者さんが紹介されました。また、当院の訪問診療の患者さんのメディカルショート(介護者の休息を目的とした短期入院)も複数人受け入れ、介護者支援として喜ばれています。

開院当初は一般病床として届出て、6ヶ月の稼働実績を持って、地域包括ケア病棟の届出を行うこととなりました。2024年3月に正式に地域包括ケア病棟として運営を始めました。

新型コロナウイルス感染症の関係で、院内ボランティアの活躍の場が減少していましたが、外来エリアが大きく変わったことから、院内案内ボランティアの活動が再開されました。

毎日3～5名ボランティアさんが入院患者さんの病棟への案内、自動精算機・検査受付機の操作補助、院内案内から車いすの点検と多岐にわたった活動となりました。

改修工事の為、移動距離が長くなり、診察室の場所が変更になるなど患者さん・職員の負担が増す中、ボランティアさんの明るい笑顔と声かけで患者様も安心して受診する事ができるようになりました。

2024年1月26日には第15回建設委員会総会を開催しました。

ふれあい生協病院が開院して初めての建設委員会総会となり、組合員、職員合わせて59名の参加でした。前回

の総会以降、地域訪問行動、内覧会、開院式典などの様々な行事を終えて、大規模な引っ越しののち、無事に新病院開院と新棟の運用開始する事ができました。

総会ではご協力いただいたお礼と現在のふれあい生協病院の運営状況を伝え、その後病院を利用した上での感想や改善点などを聞かせていただきました。頂いたご意見は、次年度の病院づくりに活かして行くことになりました。

開院できたのは組合員さんの協力や 職員の努力があったからこそ

ありがとうございます。😊



4. 職員育成の取り組み

(1) 新入職員

4月6日、今年度の埼玉協同病院の入職者を迎えての4年ぶりとなる全体朝会を開催し歓迎の挨拶を交わしました。埼玉協同病院には64名の新入職員が配属になりました。初期研修医師7名、薬剤師2名、保健師4名、助産師3名、看護師25名、診療放射線技師5名、臨床検査技師5名、臨床工学技士2名、理学療法士4名、作業療法士1名、管理栄養士3名、社会福祉士1名、事務総合職2名の皆さんです。また、既卒の医師4名(内科1名、産婦人科1名、整形外科1名、耳鼻科1名)を迎えました。同日、埼玉協同病院のオリエンテーションが行われました。

(2) 救急医療への対応

今年度も当院で日本救急医学会認定ICLS研修を2回開催しました。今年は18名の職員(研修医、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士等)が参加しました。質の高いBLS(一次救命処置)、除細動、気道管理などを学び、午後はシナリオによるシミュレーションをチームで繰り返し実施し、受講生や指導者側の満足度の高いコース内容で明日からの実践に結びつけられる有意義な学習ができました。

(3) 2024年度入職の初期研修医のマッチング

40名の医学生の中から採用面接を行いました。

当院で医師人生の一步を進み始める初期研修医が、今年も8名となりました。

4月からの初期研修プログラムに沿って、2年の研修をしっかりと積んで欲しいと思います。

(4) チーム医療を推進するための研修

10月13日専門職連携を実践的に学ぶIPW(インタープロフェッショナルワーク)研修を、埼玉県立大学の講師の協力を得て開催しました。医師、看護師など各専門職の役職者18名が参加しました。11月以降はそれぞれチーム活動にとりくみ、2月15日には研修の成果報告会を開催しました。

今回参加した3チームのとりくみは、カンファレンスの見学・他部門研修・アンケート集計とアプローチは異なりましたが、職員同士の相互理解を深めるというテーマは共通していました。参加者同士の信頼関係が生まれ、3ヶ月間楽しそうにチーム活動にとりくんでいたのが印象的でした。こうした経験や学びを得た職員が増えることで院内のチーム医療や多職種連携が向上し、患者さんにとってよりよい医療・介護の実践が広がっていくことを期待します。

(5) 再就職支援への取り組み

10月31日看護再就業技術講習会を開催しました。子育てや介護でブランクがあっても、講習会を機に、不安を減らして再就職につなげようという取り組みです。

講習内容は、医療・看護の動向と看護職の役割、採血などの技術演習や最新の薬の講義、病棟見学、座談会でした。参加者からは、「再就職をためらっていましたが、教えてくださる先輩が多いと聞き、もう一度頑張ってみようと思った。」などと声が寄せられました。うれしいことに、この講習会を機に、当法人に2名の仲間を迎え入れることができました。

(6) 将来の医療職育成のとりくみ

今年も将来医療職を目指す学生の皆様に向けての取り組みを、数多く行いました。

11月14(火)埼玉県民の日に合わせて、高校生を対象にした医師・看護職・医療技術職見学体験を開催しました。当日は23名の高校生が参加、11職種の職員が協力しながら受け入れを行いました。

将来的になりたいと考えている医療職の実際の職場を訪れ、職員の生の声を聴きながら見学体験をしました。「実際に体験しないとわからない事が理解でき、自分の将来

の夢を考える事ができた。」「どの職種もやりがいがあり、これからの進路決定を精一杯悩んで決めたい。」など、医療従事者を目指す前向きな意見が多く寄せられました。

1月11日 開智中学校の3年生10名が実習に来院し、看護師・薬剤師・放射線技師の仕事を見学し、患者さんと話をしたり機械に触れてみたりして、病院の裏側を体験しました。医師から一次救命の方法を教えてもらったあと懇談しました。すでに進路を医学部に決めている生徒もあり、10年後が楽しみです。

5. その他の特徴的な取り組み

(1) 6回目の病院機能評価受審

5月8～9日、今回で6回目となる病院機能評価の訪問審査を受審しました。医療機能評価機構の審査では、患者にとって安全で、安心な医療が提供されているか、標準的な水準にあるかどうかが評価されます。今回の審査に当たって編成した推進プロジェクトは各職種の主任層をメンバーとし、自分たちが考えている良質の医療を自分たちの言葉で語れるようになり組織全体に目を向けられるようになることを目指しました。

予定では、1月に受審の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生より、延期を余儀なくされました。

当日は、書類の審査や病院の各部門を視察し、審査員との面接調査などが行われました。講評では、今すぐ改善を指摘された項目はなく「すべて適切かそれ以上です」とされ、フードパントリーを行っているのは「患者の心も助けている活動」などと高い評価を受けました。

その後の最終評価では3項目でS評価、その他は全てA評価という結果となりました。

(2) 継続する社会的支援（フードパントリー）

前年に引き続き、第4土曜日を定例のフードパントリーの日と設定し、近隣の事業所と合同で、毎回、100世帯近くの方々に食料品や学用品・家電などをお渡ししています。

相談コーナーで生活状況をお聞きしていると、「大学生で国家試験を控えているのでアルバイトをセーブしなくては行けないが、経済的に苦しい」、「独居で人と接する機会がなく、ここに来ると話ができる」等、世代を問わず、生活の困窮さや苦勞などが語られ、参加した医学生、研修医から「病気による無職の方が多い」「物価高や電気代の高騰なども生活苦に直結していた」と言う実態を聞くことができ、多くの学びになっています。

今年度は利用される方々が増えたこともあり、お渡し

できる食材の確保も苦勞しました。職員に、不要な日用品や学用品の提供を呼びかけたり、お米や缶詰などの提供も繰り返し呼びかけたりして、支援を継続してきました。少しでも利用者の生活支援につなげられるよう、来年度以降も継続していきたいと思います。

(3) 第39回地域医療懇談会

3月21日（木）に会場27名、オンライン40名の参加のもと開催いたしました。

今回が初めての2病院合同の地域医療懇談会となり、ふれあい生協病院の忍院長より、開院からこれまでの取り組みと3月から開始した地域包括ケア病棟の役割などを報告しました。その他、皮膚科 伊藤理恵部長から「アトピー性皮膚炎の新薬治療」について、脳神経外科 石丸純夫部長から「最新の片頭痛治療について」を講演しました。来賓の先生方からは、埼玉協同病院・ふれあい生協病院への期待の言葉をいただきました。地域の先生方との連携を強め、今後さらに地域医療に貢献してまいりたいと思います。

(4) 医療生協さいたまを知らせる取り組み

10月22日（日）医療生協さいたま・コープみらい・埼玉県産観光協会・埼玉県国際交流協会の4団体による「コープみらいフェスタ」がさいたま新都心スーパーアリーナで開催されました。

健康に関連する様々な情報や体験を織り交ぜながら、運営を行いました。健康チェックコーナーでは、肌年齢や、動体視力チェックなどが人気でたくさんの方の行列ができていました。健康相談には医師を始め看護師なども参加し、日常の心配事の相談に対応していましたが、医学部へ進学したいなどの進路相談や病院へ就職したいなどの相談もあり、様々な要望に応えることができました。なりきり体験では、病院の中で働く職種の体験コーナーを設けて、顕微鏡で細菌を覗いたり（臨床検査技師）、スライムを作って軟膏壺に詰める作業を行ったり（薬剤師）しました。

(6) 市民公開講座の開催

3月16日（土）市民公開講座「アトピー性皮膚炎とは～原因・新薬・スキンケア～」をイオンモール川口前川店サイボーホールにて開催しました。親子連れの方もいらしていただき参加者75名と大盛況でした。皮膚科 伊藤理恵部長より、アトピー性皮膚炎の特徴や今までと現在の治療の違い、新薬の有効性についてお話ししました。会場から「軟膏の塗り方のタイミング」など質問もあり、

丁寧でわかりやすかったと好評でした。今後も地域の皆様に医療活動を発信していきたいと思います。

(7) 被災地への連帯支援

2024年1月1日に能登半島地震が発生しました。

全日本民医連の支援要請に伴い、埼玉協同病院・ふれあい生協病院から医師1名、看護師3名が被災地の支援にはいりました。

金沢駅付近はインフラなどが戻っている状態でしたが、少し車を走らせ能登の方へ入ると家は潰れ、インフラが十分に復旧しておらず、職員も自分の食事を確保し、石川民医連の病院で宿泊しながら支援を行いました。

現地にいる職員の方の中には、自分の家も被災し、避難所から病院に勤務している人も居られ、数ヶ月経過しても、復旧は途上であることが支援に入った職員から報告されました。

被災地復興に向けては、息の長い支援が必要です。今後も連帯して支援継続にとりくみます。

(8) 新しい病院づくりと新しい管理体制へ

2023年8月のふれあい生協病院の開院を機に、管理体制を分けて各病院の運営が始まりました。

埼玉協同病院は8月以降も増田剛院長・小野寺由美子看護部長は継続となりました。事務長は6月11日付けで増永哲士事務長から貞弘朱美事務長に交代となりました。

ふれあい生協病院は8月14日で忍哲也院長、須田登志江総看護長、小暮里美事務長の3名が任命されました。

別病院ではありますが、隣接した2つの病院が連携して一体的な運営をするように進めてきました。

3月11日には、小野寺由美子看護部長から、志村政美看護部長に交代となり、新しい病院運営を進める中で、管理者交代の多い1年となりました。

5. 主要行事

■2023年

< 4月 >

3日	法人 新入職員入職式
6日	埼玉協同病院 新入職員オリエンテーション
22日	フードパントリー

< 5月 >

8日	病院機能評価 訪問審査 ～ 9日
26日	建設委員会総会
27日	フードパントリー
31日	レストラン虹の森一時閉店

< 6月 >

5日	新入職員セルフケア研修会
7日	ウェルカフェ健康相談
9日	日本救急医学会認定 ICLS 講習会
13日	地域医療連携実務者会議
15日	新棟竣工 引き渡し
24日	フードパントリー

< 7月 >

3日	第1回マネジメントレビュー
8日	地域訪問行動
15日	開院前リハーサル
21日	ふれあい生協病院スタート集会
22日	フードパントリー

< 8月 >

2日	ふれあい生協病院内覧会 ～ 4日
6日	ふれあい生協病院開院記念式典
11日	新棟引越し・入院患者移送 ～ 13日
14日	ふれあい生協病院開院
26日	フードパントリー

< 9月 >

1日	ふれあい生協病院 入院受入れ
6日	ウェルカフェ健康相談&ミニ講義
19日	埼玉協同病院 川口保健所立入検査
25日	感染対策地域合同カンファレンス
27日	原水爆禁止世界大会報告会
30日	フードパントリー

< 10月 >

5日	地域連携新興感染症対策訓練
8日	神根連合町会防災訓練
13日	院内 IPW 研修会
17日	川口北高校教職員向け 救急法講習会開催
22日	フードパントリー
31日	看護再就職技術講習会

< 11月 >

4日	川口市立医療センター合同防災伝達訓練
6日	第2回マネジメントレビュー
14日	高校生 医師・看護職・技術職 体験
15日	中途入職者研修会
25日	フードパントリー
29日	総合防災訓練

< 12月 >

3日	川口マラソン大会救護班
9日	日本救急医学会認定 ICLS 講習会
10日	日本内科学会認定内科救急・ICLS 講習会
13日	川口市在家中学校社会体験受入れ ～ 15日
23日	フードパントリー

■2024年

< 1月 >

4日	仕事はじめ全体朝会
19日	院内医療活動交流集会
26日	建設委員会総会
27日	フードパントリー

< 2月 >

21日	ふれあい生協病院 川口保健所立入検査
24日	フードパントリー

< 3月 >

4日	第3回マネジメントレビュー
6日	ウェルカフェ健康相談
16日	市民公開講座「アトピー性皮膚炎」
21日	第39回地域医療懇談会
22日	初期研修医 研修修了報告会
23日	フードパントリー

6. 施設基準

1. 埼玉協同病院

■基本診療の施設基準

一般病棟入院基本料
 急性期一般入院料 1
 ハイケアユニット入院医療管理料 1
 早期離床・リハビリテーション加算
 早期栄養介入管理加算
 回復期リハビリテーション病棟入院料 3
 休日リハビリテーション提供体制加算
 緩和ケア病棟入院料 1
 救急医療管理加算
 診療録管理体制加算 1
 医師事務作業補助体制加算 1 15対 1
 急性期看護補助体制加算25対 1 5割以上
 夜間急性期看護補助加算 100対 1
 夜間看護体制加算
 看護補助体制充実加算 1
 看護職員夜間配置加算 16対 1 配置加算 1
 療養環境加算
 重傷者等療養環境特別加算
 緩和ケア診療加算
 栄養サポートチーム加算
 医療安全対策加算 1
 医療安全対策地域連携加算 1
 感染対策向上加算 1
 指導強化加算
 患者サポート体制充実加算
 重症患者初期支援充実加算
 報告書管理体制加算
 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
 ハイリスク妊娠管理加算
 ハイリスク分娩管理加算
 呼吸器ケアチーム加算
 術後疼痛管理チーム加算
 後発医薬品使用体制加算 1
 病棟薬剤業務実施加算 1
 データ提出加算 2
 入退院支援加算 1
 総合機能評価加算
 入院時支援加算
 認知症ケア加算 2

せん妄ハイリスク患者ケア加算
 地域医療体制確保加算
 看護処遇改善評価料51

■特掲診療の施設基準

心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に規定する遠隔モニタリング加算
 がん性疼痛緩和指導管理料
 がん患者指導管理料イ
 がん患者指導管理料ロ
 がん患者指導管理料ハ
 がん患者指導管理料ニ
 外来緩和ケア管理料
 乳腺炎重症化予防ケア・指導料
 婦人科特定疾患治療管理料
 一般不妊治療管理料
 二次性骨折予防継続管理料 1
 二次性骨折予防継続管理料 2
 二次性骨折予防継続管理料 3
 院内トリアージ実施料
 夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に規定する救急搬送看護体制加算 1
 外来腫瘍化学療法診療料 1
 外来腫瘍化学療法診療料の注 8 に規定する連携充実加算
 療養・就労両立支援指導料の注 3 に規定する相談支援加算
 開放型病院共同指導料
 がん治療連携指導料
 ハイリスク妊産婦連携指導料 1
 ハイリスク妊産婦連携指導料 2
 肝炎インターフェロン治療計画料
 薬剤管理指導料
 医療機器安全管理料 1
 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注 2 に規定する遠隔モニタリング加算
 遺伝学的検査
 BRCA1/2 遺伝子検査
 HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
 検体検査管理加算（Ⅰ）
 検体検査管理加算（Ⅱ）
 時間内歩行試験およびシャトルウォーキングテスト
 CT 透視下気管支鏡検査加算
 画像診断管理料 1
 画像診断管理料 2

遠隔画像診断
 CT撮影及びMRI撮影
 冠動脈CT撮影加算
 心臓MRI撮影加算
 乳房MRI撮影加算
 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料
 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
 初期加算
 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
 初期加算
 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
 初期加算
 障害者(児)リハビリテーション料
 がん患者リハビリテーション料
 集団コミュニケーション療法料
 精神科ショートケア「小規模なもの」
 精神科デイケア「小規模なもの」
 人工腎臓(慢性維持透析1)
 導入期加算1
 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
 透析液水質確保加算
 慢性維持透析濾過加算
 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
 椎間板内酵素注入療法
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ
 節生検(単独)
 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
 バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
 胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
 体外衝撃波胆石破砕術
 腹腔鏡下肝切除術
 体外衝撃波膀胱石破砕術

腹腔鏡下膀胱腫瘍摘出術
 腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
 胃瘻造設術
 輸血管理料Ⅱ
 輸血適正使用加算
 貯血式自己輸血管理体制加算
 人工肛門、人工膀胱造設術前処置加算
 胃瘻造設時嚙下機能評価加算
 麻酔管理料Ⅰ
 麻酔管理料Ⅱ
 周術期薬剤管理加算
 病理診断管理加算1

2. ふれあい生協病院

■基本診療の施設基準

地域包括ケア病棟入院料1
 診療録管理体制加算2
 医療安全対策加算2
 医療安全対策地域連携加算2
 データ提出加算2
 入退院支援加算1
 入院時支援加算
 認知症ケア加算3

■特掲診療の施設基準

糖尿病合併症管理料
 がん性疼痛緩和指導管理料
 糖尿病透析予防指導管理料
 ニコチン依存症管理料
 肝炎インターフェロン治療計画料
 在宅療養支援病院(別添1の「第14の2」の1の(3)に規定する)
 在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
 在宅がん医療総合診療料
 在宅酸素療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
 小児食物アレルギー負荷検査
 遠隔画像診断
 CT撮影及びMRI撮影
 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
 初期加算

呼吸器リハビリテーション料（I）
 初期加算
 障害者（児）リハビリテーション料

7. 教育研修施設等

■基本領域

基幹施設：内科、総合診療

関連・連携施設：小児科、皮膚科、外科、整形外科、産婦人科、病理、リハビリテーション科、麻酔科

■サブスペシャルティ領域

日本糖尿病学会認定教育施設（2000. 11. 27）

日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設（2000. 12. 1）

日本臨床細胞学会教育研修施設（2003. 9. 30）

日本消化器内視鏡学会指導施設（2006. 12. 1）

呼吸器外科専門医制度関連施設（2010. 4. 1）

日本がん治療認定医機構認定研修施設（2010. 11. 1）

日本透析医学会専門医制度教育関連施設（2010. 11. 26）

日本在宅医学会認定専門医制度研修施設（2011. 4. 1）

日本乳癌学会認定医専門医制度 関連施設（2013. 1. 1）

日本消化器外科学会専門医制度関連施設（2013. 4. 1）

日本胆道学会指導施設（2014. 4. 1）

日本肝臓学会専門医制度関連施設（2014. 4. 1）

日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設（2015. 4. 1）

日本消化器病学会認定施設（2016. 1. 1）

日本手外科学会関連施設（2016. 7. 1）

日本呼吸器学会認定施設（2016. 12. 9）

日本循環器学会認定循環器専門医関連施設（2017. 4. 1）

日本脳卒中学会研修教育病院（2018. 1. 1）

日本腎臓学会認定指導施設（2020. 1. 1）

日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設（2020. 1. 1）

新家庭医療後期研修プログラム認定（2020. 4. 1）

日本緩和医療学会認定研修施設（2021. 10. 1）

日本ペインクリニック学会指定研修施設（2022. 4. 1）

※（認定年月日）